

『静岡の謎を科学する』

主催：静岡市清水産業・情報プラザ（指定管理者：静岡商工会議所）

共催：新産業開発振興機構

今回は、東海大学に協力いただき、第132回の講演会を開催いたします。今回はコロナウイルス感染防止の為、オンライン（動画 LIVE 配信）講演会とさせていただきます。多数の方のご参加をお待ちしております。ぜひこの機会にご参加いただき、今後の事業活動等にお役立ていただきますようご案内申し上げます。

開催日時 2021年6月24日（木）

講演会 17:00~18:20 *17:00からのライブ配信となります

方 法 オンライン講演会となります。

*参加申し込み者にZoom参加のアドレス、パスコードをご連絡いたします

講演 1 『マニラ・ガレオン交易沈没船と駿府・静岡』

東海大学 海洋学部 海洋文明学科 准教授 木村 淳 氏

講演 2 『食品中有効成分の有機合成化学的支援の紹介』

東海大学 海洋学部 水産学科食品科学専攻 准教授 浅川 倫宏 氏

参加料 無料

定員 100名（Zoom ウェビナーを利用いたします）

申込方法 下記申込書に記入してFax、E-mailで申し込み下さい。

*オンライン講演会となりますので必ずメールアドレスをご連絡下さい。

事務局 静岡商工会議所 産業振興課（担当：岸端、堀川）

TEL:054-355-5400 FAX:054-352-7817 E-mail:info@siip.jp



本会には、宝くじ
収益金の一部が充
用されています

※申込書にご記入いただいた情報は、静岡商工会議所からの各種連絡・情報提供に利用する事がありますことをご了承下さい。

第132回「産学官交流」講演会（東海大学）参加申込書

2021年6月24日（木）開催

Fax 054-352-7817

事業所名			
所在地		TEL	
参加者名(役職)	()		()
※e-mail		※e-mail	

※欄は Zoom アクセス URL をご連絡しますので必ずご記入下さい。

又、今後の『産学官交流会』のご案内を送付させていただきます事ご了承下さい。

（原則 E-mail 案内とさせていただきます。）

講演1 『 マニラ・ガレオン交易沈没船と駿府・静岡 』

東海大学 海洋学部 海洋文明学科 准教授 木村 淳 氏

1609年千葉県夷隅郡御宿沖で、スペインのマニラ・ガレオン交易船“サン・フランシスコ号”が沈没、その乗員は駿府を訪れ、家康の庇護を受けた。その後、伊東建造の日本初の西洋式帆船で、太平洋を横断し、帰国した。1隻の沈没船と静岡との関わり、グローバルに展開されていたガレオン交易と沈没船遺跡を解説します。



【略歴】南オーストラリア州フリンダース大学院博士課程修了、西オーストラリア・マードック大学アジア研究所、シカゴ・フィールド自然史研究員を経て、現職。主な著書に『Archaeology of East Asian Shipbuilding』『海洋考古学入門：方法と実践』など。

講演2 『 食品中有効成分の有機合成化学的支援の紹介 』

東海大学 海洋学部 水産学科食品科学専攻 准教授 浅川 倫宏 氏

近年は世界的な健康意識の高まりから、病気になる前の「予防」として食生活の改善法や体にいい成分に注目が集まっています。そのため、これらの健康に寄与する食品の機能の科学的な立証をすることが重要です。地方でしか知られていなかったような「知る人ぞ知る食べ物」の世界的な認知が向上し、その結果、地域、産業の活性化が期待されます。しかしながら、疫学的（経験的）な裏付けがなされた現象でも、その要因を「化学物質レベル」で明らかにする事は容易ではありません。そのような有効成分の多くは存在量が極めて少なく、確実な機能解明研究に適用されていませんでした。そこで有機合成化学の力を駆使し、希少天然物の全合成研究を行っています。生物に対する効果の検証を行える量的安定供給を目的として、活性天然物の全合成手法の開発、新規標識化法の開発を通して、健康寿命の増進に役立つ海洋食品の新規開拓を目指しています。



私達の研究グループではこれまでに茶やみかんの成分で化学合成的支援を行ってきました。静岡特産である茶やみかんにはポリフェノールと呼ばれる機能性成分が豊富に含まれています。それぞれの成分は特徴的な機能を持つものも多く、品種により成分の増減があります。品種改良によって尖った製品を創出する際、その成分の定量方法が確立されていると効率が上がります。しかしこれらの成分を純度の高い状態で入手すること自体が困難ですが、それらを解決した例を紹介します。

【略歴】静岡県立大学大学院薬学研究科 博士課程修了・博士（薬学）コロンビア大学・博士研究員、静岡県立大学薬学部・助教を経て、東海大学創造科学技術研究機構・特任講師、特任准教授を経て、2021年より現職。有機合成化学の技術を基盤として、食品中有効成分の生物学的機能解明、農薬開発、食中毒原因物質の解明研究を行っている。